



日月天馬飛翔 2005 (ミクスト・メディア)

Melody of the Firmament

Journal of Koji Kinutani Tenku Art Museum

天空の調べ (絹谷幸二 天空美術館 機関誌)

2021.07

vol.4

ARS VITA ESTA - VITA ARS ESTA ～藝術への理想

絹谷幸二 天空美術館 名誉館長 絹谷幸二

《ARS VITA ESTA - VITA ARS ESTA》ラテン語で「藝術とは人生なり、人生とは藝術なり」。これは私の座右の銘である。

古都・奈良で生を受け、神仏の教えを心の原風景としてきた私は、ルネッサンスの大輪の花が咲いたイタリアへの留学を通じて、往時の天才たちの偉業を目の当たりに多くの刺激と出会いに恵まれ、さらに「食べて、歌って、愛して」と、かの地の陽気な現世謳歌に心酔し、有限の生の内にこそ極楽を見出すべきだという人生観を育んできた。

今回、天空美術館が贈る《ARS VITA ESTA》には、私の人生哲学が凝縮されている。源流にあるのは洋の東西を繋ぐ知の融和、生きる知恵としての「不二法門」の思想である。生と死、善と悪、戦争と平和、男と女…。こういった相反するものはそれぞれ別々のものではなく、一つのものの部分であるという古代の東洋哲学、『維摩経』の教えだ。

実は先般、前京都大学総長の山極壽一氏と対談した際に、コロナの時代を生き抜く提言として、モノを分ける西洋哲学の二元論よりも、モノとモノとの繋がりの中に活路を見出す東洋思想の柔軟性こそが今求められているのだと共感し合えた。山極氏の専門であるゴリラの生態には、自然界におけるウイルスとの共存や、連鎖と繋がる命の在り方を探るヒントがあり、ここにも新しい医学や人間の考え方が生まれ、ひいては人類救済への啓示となるのではないだろうかと思うのである。古の生きる

知恵には、最も新しい知見が息づいている。

もとより、私の選んだアフレスコは、太古の人間が石灰岩（炭酸カルシウム CaCO_3 ）とともに生み出した人類最古の絵画（壁画）技法である。石灰岩は空気中の炭酸ガスをその内に閉じ込めて人類が生存できる条件を整えている。そして人間や魚、動物の骨なども炭酸カルシウムから出来ており、山と動植物は別々ではない存在であることを教えてくれる。酸素と CO_2 、水と油を分けるのではなく、生命を成り立たせる自然界の構成要素として互いが不可欠なものと肯定することが肝要なのだ。それは現代社会の最重要課題である地球環境における CO_2 削減の糸口ともなる。まさに最古の技法が最新の英知と直結していることが分かる。

私は常日頃から、美意識と価値観は時代と共に姿かたちを変えるが、一番大切な精神性は受け継がれ、流行の中の不易にこそ真理がある、と考えている。伝統と革新、虚と実といった、相反するものを包み込む「不二」の思想をコンセプトに、森羅万象を千変万化させる自由奔放な表現を心掛け、あらゆるものを受け入れる自然の豊饒への賛美を作品に込めたいと思っているのだ。

東西の「美」を融合させ、人類に夢と希望と、そしてなによりも人間の無限の可能性に気付かせる至福のメッセージを発信し続けたい、この理想こそが私の《ARS VITA ESTA - VITA ARS ESTA》である。

作品介绍 絹谷幸二・絹谷香菜子 共作《生命輝く》 Koji Kinutani and Kanako Kinutani "Shining Life"

絹谷幸二 天空美術館 キュレーター・エデュケーター 高橋暁生

絹谷幸二 天空美術館では2020年12月より2021年6月までの期間で、特別展示「天空（そら）をいどる いのちのつながり」を開催した。そのメインを飾ったのが、今回ご紹介する《生命（いのち）輝く》である。この作品は、2017年夏、奈良の猿沢池の畔、元林院町に構える絹谷幸二の生家「明秀館」で描かれたもので、日本画家である次女 絹谷香菜子氏との父娘の合作である。F200号（絵寸2590×1940mm）の麻布キャンバスに、吸水性下地材を用い、絹谷は顔料と大理石粉（サンドマチエール）を膠や水などで溶いたマットな質感の独自のミクストメディアで、香菜子氏は逆に艶やかで透明感のある墨を用いて描いている。制作時間はわずか6日間、アフレスコと日本画、色彩とモノクロームといった、相反するバックグラウンドやスタイルを持つ二人のアーティストの感性が時にぶつかり合い、繋がり、調和しながら生み出された作品である。尚、その制作過程は、NHK BSプレミアムのドキュメンタリー番組「挑戦！父と娘が描く生命の輝き～画家 絹谷幸二と香菜子～」にて特集され、2017年に初回放送された。この番組が昨年3月と10月に再放送された折には、当館へも《生命輝く》について多くの問い合わせが寄せられた。

先の特別展は、生きとし生けるものへの愛の賛歌として、また全ての生命が絶えず燦々と輝き続けることを願い、コロナ禍で見えない明日に不安を抱く人々を本作の出展で少しでも励まし勇気を与えることが出来ればという趣旨であった。

モチーフについて見ていくと、絹谷は画面右下の人物、花束、音符などや、画面左上の百合を持つ子どもと背後にある太陽を描いている。この親子像は絹谷の愛する家族（絹谷夫妻と4人の子どもたち）である。ドリップング技法で色面を構成し、完成へのイメージを高め、輪郭線によって作品全体を整えている。絹谷が前述の番組内で「色彩は生きる力であり、生存に対する切なる思い」と語っている通り、力強く輝く生命の力を賛美するかのよう、愛する家族は極彩色によって彩られる。画面中央下の抱きかえられた子どもの口からは「不二法門」の言葉が浮かび上がっており、それは、無常と永遠、現実と空想、喜びと悲しみ、明と暗など相反する概念はそれぞれ別々に存在しているのではなく部分であり全体の一部だとする見方を意味している。全てのものごとを双眼で捉えて理解することへの重要性を説いた維摩経の教えである。

一方、画面上部の鶴、象、猿、右下の人物に抱かれたパンダ、そして太陽と相反する月は香菜子氏が担当している。絹谷香菜子氏は、モノクロームを基調とした柔らかく静謐な画風が特徴の日本画家で、特に動物をモチーフとした写実的な水墨画を多く制作している。生きていくことを瑞々

しく実感させてくれる動物たちの営みや、一瞬一瞬の表情に輝きとストーリーを見出し、細やかにそれらを描き留めているのである。今回の作品でも、香菜子氏は動物たちの平和で優しい表情を丁寧に描写している。しかし、キャンバスの吸水性が日本画の和紙と異なるためか、タッチはいつもの繊細な筆遣いと比較すると全体的に荒々しく、本作品固有の筆勢が見られる。また他にも、画面中央の象では丸めた新聞紙を擦り付け、ゴツゴツとした肌感を表現するなど、香菜子氏のパートには普段とは異なる実験的手法が幾つか見受けられる。

もともと冷静沈着に自分自身の深層と向き合いながら筆を進める香菜子氏にとって、今回のような即興的に描くコラボレーション作品の制作は戸惑うことが多かったと推測する。刻一刻と変化していく作品を前にして、自分自身のスタイルを貫きながらも一つの作品として完成度を高めていくことはとても難易度の高い業であったと言えるだろう。しかし、そうした状況下での香菜子氏の試行錯誤は、最終的に相反するスタイルの美しい調和へと結実するのである。

特筆すべきは、二人の共同作業で生まれた龍神部分である。画面全体を包み込むように配されたこの龍神は、くっきりと象られた頭部と宝珠を持つ両手、背鱗から尾鱗のアウトラインは絹谷によって、立体感のある鱗の部分は香菜子氏によって描かれている。先に龍神の一通りを描き終えた絹谷は香菜子氏の力量を試すかのように、その仕上げを託したのであった。譲り受けた香菜子氏は沈思黙考の末、墨ではなく絹谷のミクストメディアを用いて水墨画の暈しに挑戦するという折衷的な技法を編み出し、龍神に柔らかな鱗を描き込むことによって、壮麗な白龍に仕上げている。これまで意図的に絹谷と



奈良の猿沢池の畔、元林院町に構える絹谷幸二の生家「明秀館」



絹谷香菜子 《Mirror Tiger》 F20号 2020年 和紙墨岩絵具
毛並み一本一本の緻密な描写や、力強くこちらを捉える瞳が印象的な作品

相反するスタイルを強調し自分自身の表現を貫いてきた香菜子氏であったが、ここでは作品全体のまとまりを意識し、絹谷スタイルとの融合を図ったのである。その結果、香菜子氏が意図した通り、二つの描法を重ねたこの白龍は、相反するスタイルによって構成された画中のモチーフへ相補的な諧調をもたらし、作品の白眉とも言える存在感を見せている。万物の創造主である龍神が悠然とうねりながら画中のモチーフをつなぎ合わせ優しく包み込むことで、千差万別に輝きを放つ生命たちに〈共存〉をもたらしているように見えないだろうか。加えてその〈共存〉とは、まさに絹谷の座右の銘「不二法門」の実践に他ならず、絹谷自身も制作中の取材のインタビューで香菜子氏の調子（色の諧調の状態）と絹谷の色彩について、そして日本画と西洋画の線描の使い方について触れ、この作品に宿る「不二法門」を指摘している。龍神を託した絹谷には、実はこの〈共存〉を香菜子氏に気づかせる狙いがあったのかもしれない。



絹谷幸二・絹谷香菜子 《生命輝く》 2017（ミクストメディア、岩絵具、胡粉、金箔）

いずれにせよ、この《生命輝く》では各々のスタイルで創出された多様な表現が共存し輝きを放っている。それらは部分的に捉えると対立し、ぶつかり合っているように見えるところもあるのだが、しかし全体で眺めてみると龍神に宿る「不二法門」の精神によって美しい諧調へと昇華され、本作品独自の〈眩さ〉になっているのではないかと私は感じている。そして、冒頭でもご紹介した通り《生命輝く》は多くの人に愛されている作品であるが、私はこの〈眩さ〉こそ、愛される所以であり作品の最大の魅力ではないかと考えている。

それはつまり、この作品には多様な描法（画材、輪郭線、色彩、筆致など）、モチーフ、メッセージによって構成された輝きが散りばめられており、それらが「不二法門」の共通理解の上で、相殺することなく、混じり切ることもなく、それぞれが生きた個性として輝きを放っているため、作品全体を観た時には華やかな眩さとなって鑑賞者の目に映り多様な共感と感動をもたらしているのではないかとということである。例えるならば、複数の楽器で演奏されるコンチェルトの七色の音色が聴衆を魅了するようなイメージであろうか。美しいコンチェルトには大局を見るマエストロが必要となるが、この作品においてそれを担っているのが、「不二法門」の精神であり、画中をうねる白龍なのである。

6日間の制作を追った先述のドキュメンタリーを見ていると、緊張感に満ちた現場であったことが伝わってくる。限られた短期間の制作では、個々人の集中力はさることながら、やはり父娘としての深い信頼関係から成る阿吽の呼吸がなければ完成まで至らなかったであろう。そして何より、画中に描き込まれる「ARS VITA ESTA（藝術は人生）」のごとく藝術に人生を捧げた画家同士のぶつかり合いは、こちらが想像している以上に激しく厳しいものだったと推測する。しかし、その衝撃によって生み出された多様な表現はそれぞれに力強く輝きを放ち、一見バラバラに見えるその輝きも双眼をもって全体を捉えるとやはり同じベクトルで最終的には一つの大きなメッセージとなり鑑賞者を魅了するに至っているのである。このように本作は、相反するスタイルを持つ父娘だからこそ紡ぎ出すことが出来た眩いばかりの生命の輝きに目を奪われ、そして、それらを概括する「不二法門」の大局的視点の壮大さについて気付かされる一点ではないだろうか。

今までにない美術館を目指して

絹谷幸二 天空美術館 美術館事業室長 坂本博孝

「絵は皆と同じ答えを出したら間違い」と絹谷幸二は語る。算数は $1 + 1 = 2$ と皆が同じ答えを出さないと間違いだが、絵は $1 + 1$ が3や10、100になる自由な発想力や独自性が重要だと説いている。絹谷幸二 天空美術館ではそんな絹谷幸二の思想から、今までの美術館と同じではない、新しい取り組みに挑戦している。

そのひとつが開館時からの目玉である、絹谷作品を3D映像と音で楽しむ「世界初！絵の中に飛び込む3D映像体験」である。この音は展示室内にも聞こえ、体験の余韻の音に包まれながら3Dに登場した作品をはじめとする絵画や立体作品を鑑賞するのだ。当初はお客様から美術館なのに静かに絵を見ることができないという声もあがったが、3Dを見る時の迫力ある音量と、展示室でのBGMとしての音量の両立を、試行錯誤しながら作り上げていった。



絵の中に飛び込む3D映像「夢無辺」

そしてこの3D映像体験の試みは子どもたちにとっても、より美術館や芸術を親しみやすいものになっている。校外学習などの最初に「3Dを見る時は、声を出して楽しんでいいですよ。でも展示室では静かに作品を見て下さいね。」と伝えてスタート。子どもたちは3Dを見ながら「わー、きれい！富士山だ」「涙？龍が泣いている」と歓声をあげたり、手を出してつかもうとしたり、それぞれが自分の感じたことを言葉や身体で表現する。そして展示室に入ると3Dに登場した富士山や龍の作品を、目を輝かせながらじっと見ているのだ。これは大人でも3Dを見た後に実際の作品をじっくり鑑賞することで、初めて見る絵でもその世界観を先に体験しているため、愛着をもって見ることができる。現在は開館当初からの絹谷ワールドを旅する「夢無辺」に加え、2017年に京都国立近代美術館で開催された絹谷幸二展で上映された平安時代の内乱を描いた絵を映像化した「平治の乱」を、更に3D化することでより迫力ある映像として体験する、2本立てに進化した。

また2020年にはコロナ禍で人と人との接触が控えられる中、来館者の皆様に少しでも絹谷幸二と触れる機会ができないかと、新たな体験コ



2020年に新しく開始した体験型コンテンツ「画家とつながるVR体験」

ンテンツとして「画家とつながるVR体験」をスタート。絹谷幸二の美術館に込めた想いや作品解説、そして館内アトリエから東京アトリエへと飛んで、制作風景や絹谷藝術の想いを全ての来館者が仮想体験することができる。コロナ禍を逆に新しい体験創出のチャンスへと転換したのだ。

絹谷幸二 天空美術館は唯一無二の美術館として、新しい美術・芸術の楽しみ方をこれからも発信し続けて行こうと思う。

美術館からのお知らせ

絹谷幸二 天空美術館「友の会」会員募集のお知らせ

絹谷幸二 天空美術館「友の会」では、無料の会員サービスとしてイベントや展示など天空美術館の様々な情報をメール配信いたします。ご入会ご希望の方は下記のQRコードまたはホームページの「友の会」よりご登録下さい。



絹谷幸二 天空美術館ホームページ
<https://www.kinutani-tenku.jp/>

2021年7月15日発行 Melody of the Firmament / 天空の調べ vol.4
編集・発行 絹谷幸二 天空美術館
大阪市北区大淀中 1-1-30 梅田スカイビル タワーウエスト 27階